

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント学分野	修了年度	2021 年度
氏名	杉渕 智恵	指導教員 (主査)	藤井 仁

論文題目	入学直後の看護大学生の感染症予防に関する知識と意識の現状と 予防接種歴との関連について
------	--

本文概要

【目的】

入学直後であり感染症予防に関する講義がなされる前の看護大学の1年生が、感染症予防に対して持っている知識と意識の現状と、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘・B型肝炎・インフルエンザの各予防接種歴との関連を明らかにする。

【方法】

A県とB県の看護大学2校の1年生194名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は性別・年齢などの基本属性のほか、感染症の成立とワクチン、インフルエンザに関する知識、予防接種歴の有無、感染症の罹患歴、予防接種料金に対する認識、各感染症に関する症状・感染経路・治療薬・合併症や後遺症に関する知識の有無、予防接種に関する意識についてである。統計的分析方法は、 χ^2 乗検定、マン・ホイットニーのU検定、スピアマンの順位相関係数を用いた。

【結果】

研究協力の同意を得られた150名を解析対象とした。回答率は80.9%、有効回答率は77.3%であった。①各予防接種をしていないまたは覚えていない学生は、定期接種と任意接種の違いに誤った知識と意識があり、さらに予防接種の場所がわからない、予防接種を受ける時間や予防接種のスケジュールを考えると負担だと思っていた。特にインフルエンザでは、予防接種を受けるよりも感染症にかかったほうが良い、予防接種をすると必ず抗体価は上がる、学生のうちは体力があるので合併症にならない、実習以外では必要がない、予防接種を受ける時間がもったいない、場所がわからないといった、誤った知識と意識を持っていた。②4項目からなる『ワクチン忌避』は、3項目からなる『予防接種の負担感』と強い正の相関があった。③『ワクチン忌避』と、5項目からなる『学生特有の予防接種に対する消極性』と強い正の相関があることがわかった。

【考察】

感染症予防に関する知識と意識に対して学生が持つ特徴として『危険な思い込みをしている学生の特徴』と『ワクチン忌避と相関が強い学生の特徴』が明らかとなり、予防接種歴に関する特徴として、『自分が接種した記憶のないワクチンに関する特徴』と『自分が接種した記憶のあるワクチンに関する特徴』が明らかになった。感染症の知識に加え、正しい情報を収集する方法や、個人面談などでワクチンへの理解度を確認し、ワクチン忌避となりうる要因を正してから予防接種を行うためには入学後早期からおこなうことが有効であると考え。また学校側から、複数の予防接種会場を提示や柔軟なスケジュールの提案、予防接種費用の助成を考慮するなどの感染予防に関する体制を構築していく必要があると考える。

【キーワード】

「予防接種」「看護学生」「ワクチン忌避」